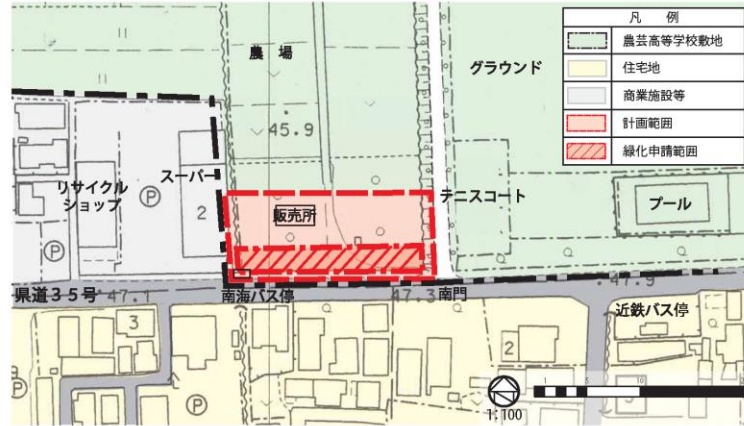


大阪府立農芸高等学校オープンガーデン

緑の環境デザイン賞 計画地概要



計画地位置図



計画地周辺図

計画地詳細(現況)

- 場所 : 大阪府堺市美原区北余部595-1
大阪府立農芸高等学校内
- 面積 : 計画地面積 1,310㎡
緑化申請面積 200㎡
- 施設等 : 販売所、物置×2、バス停
- 既存植栽 : 低・中木植栽
小さな樹林帯
桜並木 他
- 使用用途 : 週に一度の農作物や卵の販売
イベント用の苗の育成 他
- 公開性 : 販売所使用時に開放
- 特徴 : 約60m続くブロック塀
幅員1,500mmの歩道(隣接)



生徒による販売・宣伝



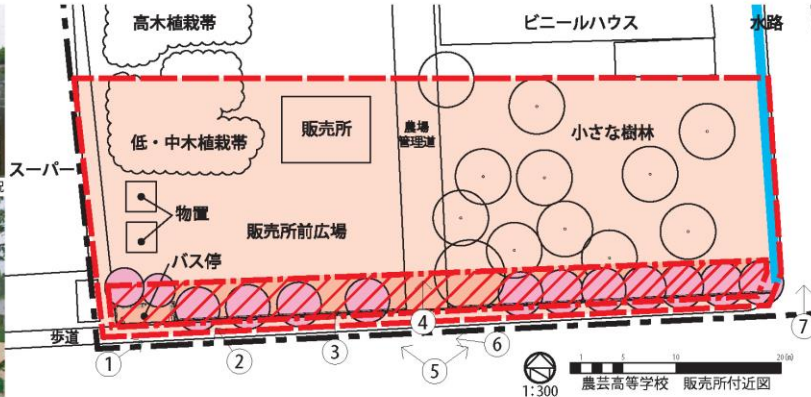
新設された野菜や卵などの販売所



農場管理道



地域と学校の関係を阻害する長く続くコンクリートブロック塀



塀による圧迫と狭い幅員



学校の南玄関

大阪府立農芸高等学校オープンガーデン

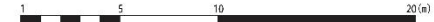
緑の環境デザイン賞 緑化プラン図

農芸高等学校の自然的・社会的環境を地域へと開放・連続化する緑化デザインを提案します。(Ecological Tone®の創出)

- 農芸高等学校と、地域間にある境界施設を取り除き開放することで、高校内に広がる樹林や農場等がもたらす豊かな自然環境効果を地域へと還元します。
- 歩道やバス停周辺を中心に生徒と市民が、緑や花を通し、ともに作業しコミュニケーションができるガーデンとすることで、農芸技術が有する社会環境貢献効果を地域へと還元します。



1:150



*…コンセプト参照



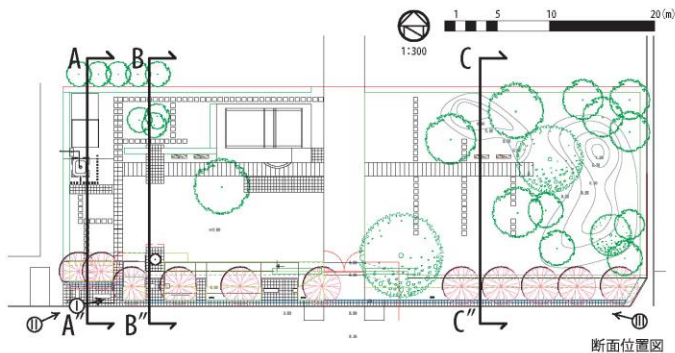
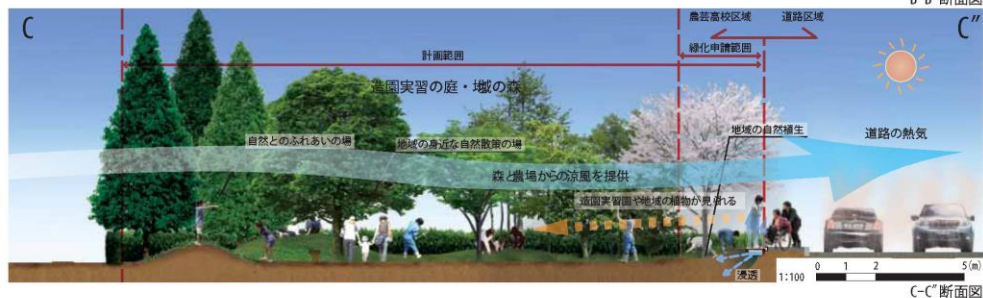
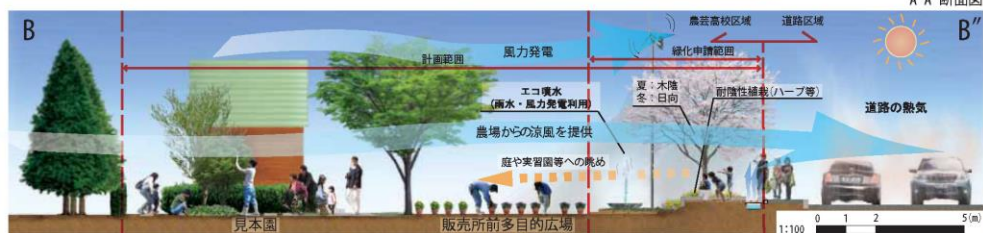
平面計画図



立面計画図

大阪府立農芸高等学校オープンガーデン

緑の環境デザイン賞 緑化イメージ図



西面パース

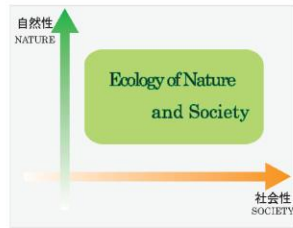


全体鳥瞰パース



東面パース

大阪府立農芸高等学校オープンガーデンは、緑化による地域と農芸高校のつながりの創出によって、
地域の『Ecological Tone』を高めます。



What is Ecological Tone・・・?

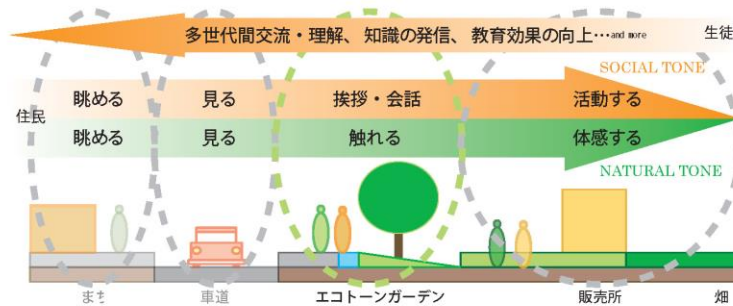
【環境】とは私たちの周りにあり、生活を支えてくれる全ての事物を指し、「自然生態学」・「社会生態学」と一般的に訳される「Ecology」と深く関係していると考えられます。
そこで、【環境】を「自然的要素」と「社会的要素」の2軸で捉え、人々の自然的・社会的な生態環境のTone(関わり連続性)を豊かなものにするのが、環境を改善していく上で最重要だと考えます。

DIAGRAM

* まちへ自然の豊かな恵みを感じられる場所の提供



* 地域住民と生徒によるEcological Toneの相乗効果



NATURAL TONE

家庭での緑化促進のモデルとなる彩り豊かな交流の菜園や地域性豊かな交流の庭、既存の緑環境、自然エネルギーの積極的な利用により、地域住民の自然環境への意識を高め、地域の自然環境の向上に貢献します。

* 身近な自然環境の改善による意識の変化

- ・彩り豊かな交流の菜園 (家庭での緑化促進)
- ・地域性豊かな交流の庭 (住民の地域の自然への理解)
- ・既存桜並木の視覚化 (身近な木陰や四季の変化の体感)
- ・既存小樹林地の視覚化 (自然環境の体感)
- ・雨水利用による灌水 (家庭で手軽にできるエコ)
- ・気化熱により冷却された風 (微気象の体感)
- ・農芸高校の堆肥利用 (自然物の循環)
- ・風力発電による噴水 (自然エネルギーによる癒し、シンボル化)
- ・太陽光発電によるフットライト (自然エネルギーによる防犯) ...etc

SOCIAL TONE

ブロック塀の撤去による圧迫感の解消、平面的な広がり、連続性・関係性の創出により地域の賑わいを学校へ、学校の活気を地域へと広げ、豊かな社会環境づくりに貢献します。

* 視覚的連続性の創出による社会環境への効果

- ・地域から農芸高校への視覚的連続性 (地域住民の農芸高校についての理解)
- ・農芸高校から地域への視覚的連続性 (生徒のまちについての理解)
- ・歩道の拡張と滞留スペースの設置 (地域住民と農芸高校の関係の増加)
- ・生徒による維持管理 (生徒と地域住民の交流のきっかけ)
- ・地域住民の手入れへの参加 (地縁・テーマ型コミュニティの醸成)
- ・生徒主体による販売所の運営 (生徒の社会勉強と地域とのつながりの強化)
- ・販売所の利用形態の多様化 (多様なテーマでの地域住民との交流) ...etc

大阪府立農芸高等学校オープンガーデンは、高校の生活をまちへとしみ出させることで、
地域の『Ecological Tone』を高めます。

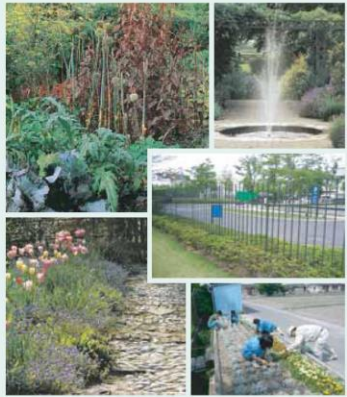
家庭での緑化モデル園

雨水を利用した灌水や、日陰でも育つ植物など、家庭で気軽に取り組める自然環境に配慮した緑化について地域へと発信していく場所です。



彩り豊かな交流の菜園

視線がよく通るフェンスを利用し、バス停や休憩・展望スペースを歩道から高校側へ突き出すことで、街行く人々の視線や興味を誘い、まちと高校の接点を創出します。



地域の人たちとの交流広場と販売所

育苗などの利用が無いときには、オープンカフェのようなイベントや農芸高校で収穫した野菜や卵の販売や家庭菜園の講習会等、様々な催しが行われる活気ある交流広場です。



農芸高校の地域への表現の場

ここでは生徒が作業する姿が見られるばかりでなく、生徒の作品の展示やイベント等の情報を発信する掲示板等があり、休憩しながら農芸高校について知ることが出来る場所です。



緑へのアプローチ&造園実習園

一筋の道が奥のマウンドへと誘います。飛石で区切られた区画は造園実習園や来園者の駐車場としても利用できます。



地域性豊かな交流の庭

見通しがよく、春には造園実習園や樹木の緑とサクラの共演を楽しみながら散歩ができます。さらに、樹木の木陰からたくさん生き物たちも顔を見せてくれます。



地域の森

* 自然を体感する芝生広場

広々とした芝生広場が、子供たちの恰好の遊び場となり、周辺環境を享受する視点場ともなります。



* 存在感のある芝生マウンド

大きなマウンドは環転がったり駆け回ったりと多様な利用が可能で、この場所のシンボルの存在となります。



* 地域の四季を映し出す樹林地

この地域らしい植栽によって四季折々の表情をみせる樹林地は、この地域みんなの庭となります。



大阪府立農芸高等学校オープンガーデンは農芸らしさと地域らしさを演出した植栽によって、

地域の『Ecological Tone』を高めます。

＊ 彩り豊かな交流の菜園

＊ 農芸高校らしさを演出する彩り豊かな交流の菜園

全体の構成種を日陰でも育つハーブ系で食を連想させるものを中心とすることで、まちを歩く人に農芸高校らしい植栽を楽しんでもらえる安らぎの場を提供します。



＊ 家庭でできるモデル植栽

家庭菜園で手軽に利用できる植物を主要植栽とし、生徒が率先して世話をすることで地域住民の方々との交流や、地域への環境緑化の普及のきっかけを作ります。



＊ 彩り豊かな交流の菜園・植栽構成種



タイム (春)



チャービル (初夏)



バジル (夏～秋)



ミント (夏～秋)



パセリ (秋)

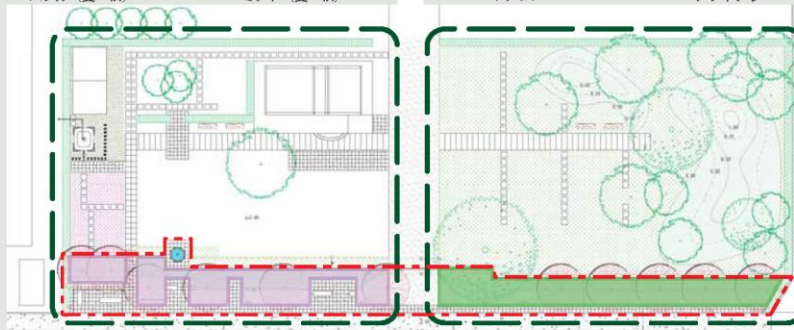


ローズマリー (秋～冬)



スイートバイオレット (晩秋～早春)

・・・ 植栽範囲



＊ 地域性豊かな交流の庭

＊ 地域らしさを演出する地域性豊かな交流の庭

大阪府南部で多く実生する草本類を中心に植栽することで、農芸高校の既存の樹林と地域のつながりを創出し、地域で親しまれる樹林を提供します。



＊ 四季を感じる多様な植栽

小ぶりながらも花を咲かせ実をつける、各季節で見頃を迎えるかわいらしい植栽とすることで1年を通して小さな発見のある地域の庭とします。



＊ 地域性豊かな交流の庭・植栽構成種



ヤブラン



フッキソウ



シャガ



ユキノシタ



ジャノヒゲ



ヤブコウジ

・・・ 植栽範囲



ツバキ